



みのわマックを支える会



2018年11月3日

みのわマックを支える会発行

みのわマックだより

第298号

事務局 〒114-0023 東京都北区滝野川7-35-2

TEL 03-5974-5091 FAX 03-5974-5093

郵便振替番号 00110-8-363663 (ジャパンマックを支える会)



みのわマックの施設長を長く務められ、アルコール依存症者の回復を心から願い
深い愛情を持って、指導いただいた山本晋一さんがお亡くなりになりました。
哀悼の意を表し、仲間から感謝を込めてお話しいただきました。

『山本さん追悼』

みのわマック元職員

山本さんと出会ったのは今から18年前、山本さんが還暦を過ぎた頃だ。当時の代表であった荒井さんから頼まれてみのわマックの経理を手伝うこととなった。

いわれていたが、通所者のことを知りたくて参加させていただいた。通所者一人一人について担当から報告がある。難しい場面になると山さんが口を挟んでくる。プログラムについて、仕事について、考え方について、温かい口調は深い愛情が感じられる。福祉という仕事を、ただ

仕事としてこなしていた僕にとって、愛をもって接している山本さんの姿は新鮮に映った。

通所者がソフトボールで足を折ったときなど、真っ先に付き添って病院へ行き、僕たちには行かなくていいからといいながら毎日のように見舞いをしていた。先行く仲間たちからはしきりと、怖い人だ、気が短い、などと聞いていたが、この頃の山本さんはやさして目をしたおじさんだった。定年の65歳を前に職を辞したときもハローワークで学んだことを楽しそうに話して、しきりと参考になるといっていた。常に仲間の回復が頭にあったのだ。

一方経理や法律のことなど自分が苦手なことは、俺にはわからないからと、信頼して任せてくれた。北区の監査の時などは、完璧な準備をすべくあたふたと走り回っていると、わからないことは教えてもらえばいいじゃないか、と声をか

けてくれる。自分がやっている仕事について自信を持って対応しているからこそ出てくる言葉だと思う。後日ミニ神父が亡くなったときに山本さんから聞いた話がある。ミニ神父がアメリカに帰ったときに、アメリカの最新のアルコール依存症回復について知りたいといったところ、今あなた方がやっていることが最新のことでですからその必要はありませんと言われたとのこと。そう言われて納得できるのは、仲間への深い愛情と謙虚さをもって仲間の回復を支援していたからだ、こうして当時の山本さんの発言を振り返ってみるとわかる気がする。

一昨年、「ぬじゅみ」にお話に来ていただくようお願いした。二つ返事で受けていただいたのだが、当日になっても現れない。電話を入れると忘れていたとのこと。その後も会うたびに来ていただくようお願いをして、そのたびに来て

もらう約束を取り付けていた。突然、それが叶わぬことになってしまったことを告げられたときに、心から残念に思うと同時に、最高の笑顔を思い出そうと決めた。僕の山本さんは、みのわマックの事務室の椅子に座って暖かく微笑んでいる。



山本さんの思い出

支える会前会長 T

私がみのわマックに通う様になったきっかけは、埼玉のY病院を退院して、Kグループに通い出して、仲間からの提案でした。仕事もなく、金もなく不安な日々でした。

アルコールもやめるつもりもありませんでした。が、みのわマックにとりあえ

ず行きました。ミーティングに出て、プログラムを説明され、迷いました。3ヶ月毎日通う自信がありません。そしたら山本さんが2～3日通ってから決めてもいいよと言ってくれました。

2～3日たっても決められません。1週間位通って決めればいいよと言ってくれました。いつの間にか毎日通う様になっていた事を思い出します。

又ある時、今日3ヶ月のメダルなんだと話していたら、夜メダルミーティングに来てくれた事が有りました。びっくりしました。

山本さんは、メダルをもらってお礼を言った自分に、そういうのは回復だとか、大工さんやってた割には意気地がないとか言ってた事をおぼえています。

退所してからは仕事をやめたり、会社が倒産したりした時にマックに行きましたが、山本さんと話をすると、気持ちが楽になり、前向きな気持ちになった事

を思い出します。

しばらくたってから、支える会でお手伝いする様になって、度々お会いする様になりますが、いつもあいさつ程度の会話でした。

10年位たった頃だと思いますが、タケちゃん、「いつもありがとうね」とやさしい言葉をかけられた事は、一番の思い出です。

いつも見ているんだな！ いつも見守ってくれているんだなと、感じていました。

これからもみのわマックを見守ってくれている事を信じています。

ありがとうございました。



バーブ(山本晋一)に捧ぐ

AA日本橋 G 92

平成9年8月26日、板橋にある
《みのわマック》の玄関ガラス

引き戸を開けた時から、私のソーバーが始まりました。

通所面談は当時の所長バーブで、面談内容は『此处は何をする処かわかっているの?』『酒を止める処でしょ!』『わかっているなら止めるのか?』『止めるつもりが無けりゃ来ないよ』『それなら、今ミーティングをやっているから参加しなさい』たったこれだけでした。

一週間分の着替えと私個人の健康保険証のみで家を追い出され、ホームレスになってからは更生へのカテゴリー得るために、根掘り葉掘り過去を話し続けていた私にはシンプルながら強い意志を感じさせる出会いでした。

院内からの通所が始まり、最初の担当は小林さんでしたが、とあることで噛み

付き、翌日通所した時に事務室にバーブから呼び出され『今日から貴方の担当は俺だから、文句があるなら俺に言え！』と厚表紙の出席簿で頭を叩かれました。この時から月間のミーティングは自己管理に一か月分の予定表を提出し承認を貰ってAA ミーティングに参加すると言う施設プログラムでは異例のことでした。

マックでのミーティングで思い出、バーブは書籍の文言を自分のフィーリングで勝手に変えて漢字ならぬ《感字》でしたが妙にマッチしていて、字面でなく霊的に捉えていたなあ〜！午後のミーティング時に少し慣れた連中が居眠りをしていた時に烈火の如く怒り語気荒げて『寝るなら事務所で寝てろ、ミーティングに出るなら顔洗ってこい！』一つのミーティングで生命救われた仲間もいた、ミーティングは生命がかかっているのだと。

自分は入院期間が長く、主治医からはナイトケア入寮以外の退院は認めない、この主治医は過去にバーブからお叱りを受けたドクターで、過去に或るアルコールリックに見込みが無いから駄目だ！と言って、バーブから駄目か駄目じゃないか決めるのはハイヤーパワーで医師が判断するものじゃ無い！って言われたと笑いながら話してくれました。これこそがバーブの真骨頂で医療が・福祉が。社会が見放しても今度は大丈夫って信じてやれるのは仲間だけ！の信仰心。

当時みのわマックナイトケアの企画段階だったのに、福祉関係者に厄介者扱いで退院、入寮の手続きをされて、宙に浮いた存在だった自分を急遽G0サインで受け入れて貰えたのもバーブに感謝です、三か月は遊ばせてやるけど過ぎたら直ぐに働けの指示、マックのミーティング嫌だったので半日仕事の条件だったのに、ハローワークで検索条件は給料

よりも勤務時間の10:00から15:00で即ちマックでミーティングしないで済むから。直ぐに08:30～15:00の内定貰い報告しましたが『なんの仕事だ?』『食堂のランチと夜の仕込みです。』『何料理だ?』『焼鳥屋ですがランチですから』『酒があるだろ直ぐに断れ、ここから電話しろ!』翌日施設に時給百円UPするので是非の電話も横で睨まれて断ったのも記憶に!でも結局は08:30から16:00に病院内の作業に従事しました。

ナイトケア退寮時も部屋の保証人になってくれましたし、引っ越し代も使って無いのでバーブが宿直明けに車で運んでくれました。その後も多分に迷惑をかけてしまいましたが、よく叱られ、よく叩かれ、よく頼まれ、同じ下町の生まれからか気も合いますが、《いいからやれよ!》は最も多く頂いたと思います。

最後に未だご逝去は信じ難いのですが、《しょうがねな、貴方のわかったは

聞き飽きたいいからやれよ!》って天から声を頂いています。

心よりご冥福をお祈り致します。 合掌



用務員さんから親父に。

AA久が原グループ M

1 999年の秋に、私はクリニックから「もうこの患者とは関わらないでほしい。

あなたが行く場所はみのわマックしかないでしょう」と言われて電話をした記憶があります。

板橋の駅で職員さんと待ち合わせしたのですが、改札を間違えて「なにやってるんだ。誰もこねーじゃないか!」と怒鳴りまくる電話をかけました。当時の私

は少しでも酒も薬も使っていないと人も自分が立っていることも怖くて全てが戦うものになっていたと思います。そこに黄色の古ぼけた自転車で迎えに来てくれたのが当時の所長の山晋です。

（そのころは、みんなヤマシンと呼んでいました。）自転車を手で押しながら私のことをマックまで案内してくれました。歩きながら「ここは春になったら桜がきれいなんだ。あそこのコンビニでみんなが買い物してる。」等の病気のこと何れも責めず聞かすの小さいおじさんだったので、なんだか分からないけれど「フン、フン」と話を聞きながらついていったんです。「きさくなおじさんだな。きっと用務員かなんかやってるんだ」としばらく思っていました。

病気を病気と思っていなかったし、私は生きるために酒・薬・摂食・ギャンブル・男が必要だったので全て手放すなんて冗談じゃない！死ぬしかない！と思っ

ていたものです。でもマックにしか行く場所が無く話しをしてくれる人も回りにいなくなっていたので毎日通うようになり自然とプログラムを真剣にやってみよう思えるようになりました。

歩くことの土台を作ってもらった大事な時間でしたね。

当時の山晋は本当に怖くて、ミーティングでも余計な音を立てたり話しをしたりすると真面目にキレて「何やってんだ！ミーティングには命かかってんだぞ！」と怒鳴られたものです。でも逆に、ただ怖いだけでなくなんだか分からないけど大きな愛情もくれたのが体に沁みていたのも事実で怒られてもまたそばに行きたい私がありました。

マックから社会に出させていだいてからも、何かあるたびに相談にのってもらっていました。私が少しずつ普通の人の生活が出来るようになることを心から喜んでくれてたし、私自身にとっても

心から素直になれる大切なAAでの親父になっていたんです。

でも数年前から電話をかけると「はぁ～はぁ～」と息を整えるのが聞こえるようになって来ました。私が「大丈夫？ 苦しくない？」と言うもんなら「ばかやろー大丈夫だよ。おまえこそ大丈夫か？」と会話の始まりは負けず嫌いの親父の言葉からです。どんな時も全力で受け皿になってくれていたんです。

親父からの言葉で忘れられないのが「結局、信じるか信じないかなんだよ。苦しいときほどお祈りを大事にしなきゃいけないんだ。神様が離れるとだめなんだよな」。体が悪くなって来た親父からのその言葉は真実であり、ことあるごとにその言葉は私の中に出て来ます。

親父と最後に話せたのは亡くなる10日前くらいでした。親しい仲間から親父の体の調子が悪いことを教えていただいて電話をかけたんです。

「おう、おまえか」声は少し弱っていました。電話で親父から「最近、あんまり調子が良くないんだ」と始めて弱い親父の言葉を聞いた気がします。

話の終わりに「ちょっとずつでいいから無理しないで体を治してね」と言う「そうだな」と親父。

「ひどい病気の仲間をほっとけないもんね！」と言うと「まあな！」、、、、

亡くなった日に仲間のおかげで親父に会いに行くことが出来ました。私のことを心配する仲間から「バーブが亡くなった」と電話をいただいた時は「はぁ、

え、」何を言われているのか理解できませんでした。仕事を早退させていただいて、電車に乗って親父の家の最寄の駅に

着くと仲間が待っていてくれて我慢していた涙が止まらなくあふれ出しました。

今もこの原稿を書きながら思い出すと涙が止まらない。沢山いただいたものが私にはあります。それは形になって見え

ないけど大事な大事なものです。

きっと親父からは「お前がもらったものを手渡していくんだよ！」と言われるきがします。

「ありがとう。」私はこれからもプログラムを信じて生きていきます。



「南千住まで…」

みのわマック 川村

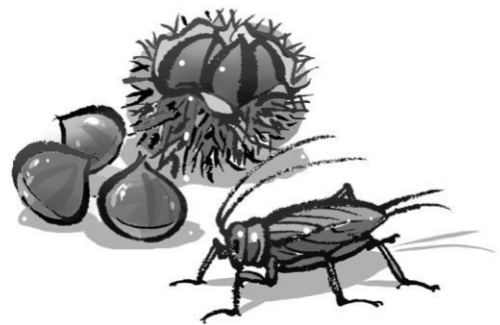
山 本さん、帰りますよ」「ああ…
そんな時間か？ よろしくお願
いします。」と週二回、山本さんを車で、
南千住駅まで送る時間を頂いた。私が車
の運転免許証を取得したのは、みのわマ

ックに入職してからの事でした。先輩職
員から「マックで仕事する様になったら、
運転免許は必要になるから取得しとい
た方がいいよ」と言われたのがキッカケ
だった。マックには二台車があり、一台
はAT 車もう一台はMT 車。どちらでも対
応出来る様に MT 教習にした。まあ～こ
れが苦勞しました。一時期こんなに苦勞
する様だったら諦めるか、AT 教習に変
えようかと考えて、一時期教習所にさえ
行かなかった時があった。そんな時、山
本さんに「そう云えば、教習所どうし
た？」と聞かれ「中々、忙しくて行けな
いんですよ…」と話したら「なるべ
く間を置かないで行った方が良いぞ、俺
も苦勞して取った口だからなあ、自分で
頑張れるだけ頑張れよ」とアドバイスし
てくれたのを、キッカケに再び教習所に
行き初め、期限ギリギリに免許証を取得
する事が出来た。山本さんが二年前に入
院したのを、きっかけにマックからの帰

り南千住駅まで送る様になり、その車中で色々と話をしたり、聞いたり、とても楽しい時間でした。相談事でも何でも山本さんに聞くと山本さんは、常に自分の体験を話してくれて、その後「あなたは、どう思う？」と聞いてくれて、その後色々とアドバイスをしてくれました。その中には叱咤激励がありましたが、いつも最後は「まあ、頑張れよ」と、にこやか言ってくれました。誌面の関係もありますので印象的なエピソードを二つ書きたいと思います。先程の半ば諦め様とした事を、暫くして話した時「諦めなくて良かったな、諦めてたらいつもその癖がついちゃうんだよ、勿体無いんだよなあ…」

又、免許を取って暫くした頃、黄色信号で急いで渡ろうとした時など「教習所で教えてくれた事が一番なんだぞ、大丈夫かな？とか、まあいいや！何て考えは明らかに自分の考え方。そんな隙が起こっ

てくると、必ず事故を起こすぞ！」山本さんは、常に日常生活とプログラムを分かり易く話してくれました。それは…私にとって、今でも…これからも良い思い出と経験だと思っています。辛かった時、挫けそうな時、笑顔で「おい！しっかりしろ！」と励ましてくれる声が聞こえて来そうです。亡くなってしまった事は残念ですが、私の中には「南千住まで…」の山本さんが見守ってくれている様な気がします。



オープンミーティング開催中！
毎月第3日曜日 PM6：00～7：30
どなたでも参加できますので気軽に来てくださいね！

主催 みのわマックOB

平成30年9月の通所者状況

●通所者数

	新規
継続	13
新規	
合計	13(4)

①どこから

	所属	継続	新規	合計
病院	N病院	1	1	2
	I病院	0	0	0
	S病院	0	0	0
	その他	0	1	1
	小計	1	2	3
施設	S荘	0	0	0
	Y寮	0	0	0
	その他	1	0	1
	小計	1	0	1
福祉	東京都	7	1	8
	埼玉県	1	0	1
	千葉県	1	0	1
	神奈川	0	0	0
	その他	0	0	0
	小計	9	1	10
自費	東京都	2	0	2
	その他	1	0	1
	小計	3	0	3

ミニ	みのわ通所者	10	0	10
ー	就労者	1	1	2
R	計	11	1	12

②地域別

	男性
東京都	11
埼玉県	1
千葉県	1
合計	13

③年齢別 * 試通・アフター含む

	男性
10代	
20代	1
30代	4
40代	6
50代	6
60代	4
70代	
合計	21

④中途終了

	自己都合	スリップ	AA	他施設	その他	合計
理由	0	0	0	0	0	0

⑤終了者

	就労	AA	他施設	復職	その他	合計
行き先	0	0	0	0	0	0



外プログラム予定

7日	水	調理実習/各班(AM)	滝野川文化会館
10日	土	みのわマック ステップセミナー	ハイライフプラザ板橋
13日	火	川崎マックセミナー	川崎産業振興会館
21日	水	体操(AM)	滝野川西ふれあい会館
22日	木	本木荘合同 ソフトボール(PM)	荒川河川敷
28日	水	アル施連 秋のフェスティバル	サンピアンかわさき
29日	水	卓球(AM)	滝野川西ふれあい会館

編集後記

晩秋の候…と云う様に、この時期の季語として使われる“晩秋”と云う言葉が好きです。私自身、秋の生まれであるからかも知れませんが、春の夕方の様なウキウキした感じでも無く、夏の夕暮れのワクワクした感じでも無く、冬の夕刻のせわしない感じでも無い、秋から冬にかけての正に秋の夜長にぴったりとした季語だと思います。今年の夏は猛暑・酷暑続きでしたので、秋の深まりが早い様ですね。日中の気温差が激しいと見事な紅葉となる様ですし、夜の虫の声も心地良い響きではないでしょうか？今月号は7月21日にお亡くなりになりました、山本さん(バーブさん)との思い出を数名の方にお願ひ掲載させて頂きました、私も稚拙な文章で申し訳ないのですが掲載させて頂きました。晩秋の夜、其々皆様と山本さん(バーブさん)の思い出をクロスオーバーしながら読んで頂けたら幸いです。

みのわマック 川村 良一